

チュチェ思想と自主強国

朝鮮民主主義人民共和国社会科学院副院長

ソン・ヒョンウォン

朝鮮民主主義人民共和国は、大国の独裁と専横が乱舞する現世界でいかなる圧力と懐柔、制裁と封鎖にも微動だにせず、正義を守り、自分が選択した道を屈することなく進む尊厳ある強大な自主強国として威容を轟かせています。

普通の常識では十回も崩壊したはずの、そういう最悪の条件でも社会主義の旗を変えることなく守り抜いたばかりでなく、強国の高い目標を提起し、自己の方式で全面的発展を遂げていく奇跡の国がほかならぬ朝鮮民主主義人民共和国です。

すると、このような自主強国がどのようにして世に生まれるようになったのでしょうか？それは決して偶然なことではなく、自主時代の偉大な革命思想であるチュチェ思想がもたらした歴史の奇跡です。

偉大な思想が偉大な時代を生み、偉大な国の誕生をもたらすということを朝鮮民主主義人民共和国の現実をはっきりと示しています。

金正日総書記は次のように述べています。

「朝鮮革命はチュチェ思想によって導かれる革命であり、チュチェ思想をぬきにしては朝鮮革命のすべての勝利について考えることはできません」

自主性はチュチェ思想の基本的カテゴリーであり、チュチェ思想の中核は自主性です。

チュチェ思想は歴史上初めて何ものにも従属されたり、束縛されたりせず、世界と自己の運命の主人として生き、発展しようとする自主性が社会的人間の本性であることを解明し、自主性を人間、人民大衆にとって、ひいては国と民族にとって何ものよりも貴重な生命としておし立てました。チュチェ思想によって人類の歴史が自主性のための闘争の歴史に、人民大衆の自主性を実現することが革命闘争と社会主義、共産主義建設の目的に規定されるようになり、いかなる環境と条件でもすべてを自己の頭で思考し、自力を発動して解決していく自主的立場が革命と建設で堅持すべき根本的立場として定立されるようになりました。

朝鮮革命の全歴史はほかならぬ自主性を中核とする自主の革命学説であるチュチェ思想が現実具現されてきた歴史であり、この思想を国家政治哲学にし

て祖国の地に自主の強国が建設され、強化発展されてきた歴史です。

自主の革命学説であるチュチェ思想はまず、朝鮮民主主義人民共和国を自主精神の強い人民が団結してたたかう自主の強国に変えました。

国の根本は人民であり、国の強弱は人民大衆がいかなる思想と精神をもっており、いかに団結されているかにかかっています。

かつて、朝鮮人民は卓越した領袖をいただいておらず、正しい思想を受け入れなかったことにより、事大主義と屈従をただの宿命と甘受して生きてきたし、思想意志的団結を実現せずに四分五裂になり、しまいには植民地奴隷の運命を強要されなければなりませんでした。

その朝鮮人民が不滅のチュチェ思想に接するようになってはじめて、世界のどの国の人民も比肩できない強い自主精神をもった人民として尊厳を轟かせるようになりました。

偉大な領袖、党の賢明な指導の下に朝鮮民主主義人民共和国では全人民を精神力の強者に育て上げ、全社会の思想的統一化を実現するためのチュチェ思想教育活動が力強くくり広げられ、自主の革命思想と背馳する事大主義、教条主義、民族虚無主義を根絶するための闘争が強く展開されました。

今日、朝鮮民主主義人民共和国では金正恩総書記の卓越した指導の下に全社会的にわが国家第一主義を鼓吹し、全面的に具現するための活動が力強く展開されています。

わが国家第一主義、これは社会主義祖国の偉大性にたいする誇り、自負であり、国の全般的国力を最高の境地に引き上げようという強烈な意志であり、その思想的基礎はほかならぬ自主性を中核とするチュチェ思想です。

わが国家第一主義は今日、自主精神の強い朝鮮人民の全人民的な思想感情として一段と昇華発展しており、全人民の民族的自尊心、愛国心が高く発揮される中で自尊と繁栄の新時代、わが国家第一主義の時代が開かれるようになりました。

自主性を命よりもっと重んじる偉大な人民が団結して生き、たたかっている朝鮮民主主義人民共和国の真の姿は、まさに自主の革命学説であるチュチェ思想がもたらしたものです。

自主の革命学説であるチュチェ思想はまた、朝鮮民主主義人民共和国を自国人民の志向と要求、自国の具体的実情に即して路線と政策を確立し、確実に貫徹していく自主の強国に変えました。

自主的な国であるか、それとも名ばかりの「自主」を標榜する従属国であるかは、どういう路線と政策を立てて実現していくかではっきりと表れます。自

主強国はまさに外部勢力の圧力がいかに強く、難関と試練がいかに厳しいといってもいささかの動揺もなしに自主の路線と政策を立ててその道に沿って力強く進む尊厳高い国です。

祖国の地が二つに分かれ、帝国主義の頭目であるアメリカ帝国主義と真っ向から立ち向かわなければならず、大国主義、支配主義の干渉策動がひどかった朝鮮民主主義人民共和国の状況のもとで、自主的な路線と政策を立てて堅持するという事は決して容易なことではありませんでした。

しかし、朝鮮人民はチュチェ思想のような自主の革命学説を指導指針としてきたがゆえに、自主の路線と政策でいささかも脱線しませんでした。

朝鮮民主主義人民共和国ではチュチェ思想が示した思想における主体、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の革命路線を一貫して堅持し、対外政策においても自主性にもとづいた対外関係の発展を徹底的に固守してきました。

朝鮮民主主義人民共和国では戦後、国際的分業に参加することを執拗に強要していた現代修正主義者の策動を断固粉碎し、自立的民族経済建設路線を堅持して貫徹したことをはじめ、朝鮮労働党と国家が打ち出した路線と政策はすべてがチュチェ思想にもとづいた自主の革命路線であり、政策でした。

朝鮮革命と建設において一貫して堅持されてきた自主の革命路線と政策は今日、金正恩総書記によって純潔に継承されており、経済建設と核武力建設を並進させるという戦略的路线、自強力第一主義路线のような新たな路線と政策で発展豊富化されました。

自主性を中核とするチュチェ思想を政治理念としている朝鮮民主主義人民共和国は、誰がなんと言おうと、他人がどの道を行こうとも、ひたすら自分の定見をもって自主的な路線と政策にそって自己の方式で生きてきた偉大な自主強国です。

自主の革命学説であるチュチェ思想はまた、朝鮮民主主義人民共和国を徹頭徹尾自力を信じ、自力更生の闘争気風で富強繁栄を成し遂げていく自主の強国として威力をとどろかせました。

人間が他人のおかげを被れば卑屈になるように、国も他国の援助や助けを多く受けるようになれば従属と屈従を免れなくなります。自力更生の旗を高く掲げてすべての問題を自力で解決していく国が真の自主強国です。

朝鮮民主主義人民共和国で社会主義建設の全歴史を一言で言えば、自力更生であるといえます。

帝国主義の植民地統治と侵略戦争、野蛮な破壊と執拗な制裁によって朝鮮人民は他人なら想像もできない極悪な環境と条件で革命と建設を行わざるを得ま

せんでした。もし、朝鮮人民が目前の困難だけを思いながら他人の援助などを哀願していたならば、今日の強大な自己の祖国について考えられなかったでしょう。

朝鮮労働党は革命と建設で常に他人の援助ではなく、朝鮮人民の力を基本におし立ててそれに徹底的に依拠し、人民大衆の精神力を最大限発揮させ、内部のあらゆる可能性と潜在力を動員利用することを鉄則としてきました。

朝鮮人民がチョンリマを駆ける勢いで前進して他人が数世紀を経た工業化をたった14年間で遂行することができたのも、チョンリマに速度戦をプラスした勢いで前進して労働党時代の最盛期を開き、最悪の試練と難関が折り重なった苦難の行軍、強行軍を勝利的に突破することができたのも、自分の力を信じてそれに依拠する自力更生の革命精神が徹底的に具現されたからです。自力更生を発展と繁栄の靈剣にとらえて力強くたたかってきたがゆえに朝鮮人民は、自立経済と自衛的国防力の強固な物質的・技術的土台を築き、朝鮮は人工地球衛星の製作および打ち上げ国、東方の核保有国の地位に浮上することができたのです。

自力更生を朝鮮労働党の変わらない政治路線としておし立て、帝国主義の反共和国圧殺策動を自強力増大の機会に反転させるための闘争を賢明に導く金正恩総書記の卓越した指導があつて今日、朝鮮民主主義人民共和国は自力によって強大であり、繁栄する社会主義強国に急速に変貌されています。自力によって社会主義を建設する日々に朝鮮労働党と朝鮮人民は、前代未聞の試練と難関を経ましたが、数千年の民族史を通しても享受できなかったすべての栄光を迎え、朝鮮は自力更生を発展の限りない原動力とし、自力で富強繁栄していく偉大な自主の強国としてその威容をとどろかせています。

朝鮮がこの世のどの国にも比べられない自主の強国として建設され、威容を誇示している巖然たる現実には、まさに偉大な自主の革命学説であるチュチェ思想の正当性と生命力にたいする明白な証左であり、自主性を志向する世界の進歩的人民は誰もがチュチェ思想をもっとも正当で普遍的かつ生命力のある革命思想として認め、それを具現するために力強くたたかっています。